



## 新元号に思いを馳せて！



理事 豊泉 良

この号が発刊される時、平成の元号もわずかとなり、新しい時代への期待と、少しの寂しさを感じているでしょうか。

これから30年、50年先はどんな時代になっていくのだろうと、思いを馳せてまいりますと…、人工知能やAIの活躍…、私ら昭和生まれの世代はどこまで共存できるだろうか…等々。

しかしながら、今現在の私たちに課されている諸々。10月からは消費税が10%になります。平成元年4月に3%で始まった消費税は右肩上がりでとうとう10%になり、社会保険料も同じく右肩上がりで天井知らず。同時に我が職場に限らず人材不足日本の昨今、「働き方改革」と掲げの中で非常に身に染みるこの頃です。そして幼児教育無償化がスタート。《幼児教育の重要性に鑑み、全ての子どもに質の高い幼児教育を保障することを目指すもの》として、この無償化とする本質を履き違えることのないようにしたいものです。この制度を受ける保護者や成長していく幼児が15年後、それこそ30年後の日本を支えていくことに希望を持ち、教育とは何か？学習意欲とは何か？切磋琢磨とは何か？を今一度考えなおす良い機会なのではないでしょうか。

30年前、当時の小淵官房長官が「新元号は『平成』です。」と発表してからは、簡単に言うと、アナログからデジタルへの変化変更だったような気がします。

この30年間で驚く程日本の生活スタイルは変化し、一見物質的には満たされた社会となりました。情報収集量・速さ、居ながらにして世界中と通じる便利さ、言葉を発しない会話ツール、乳幼児がスマートフォンを操る等々。私が小学生のころには想像さえしなかったことが現在普通のことです。この変化のスピードは更に増していくものと思われ、また、そのスピードを求められていることも事実あるのではないのでしょうか。生活の利便性は充実し満たされた社会ではありますが、一部分の過失や失言への過剰な反応を目にする度に、心の余裕や満たされ感はどうなのだろうと、寂しさと疑問を覚えます。昭和・平成そして次の元号を生きていく私も50歳を過ぎ、心の余裕をもっていきたいものと反省しています。

そこで、ここ数年大人の趣味としてゴルフを楽しんでいます。社会人になってから手ほどきを受け、見よう見まねで始めたゴルフ。前職場で、上司や先輩・同僚と晩秋の朝まだ暗い時刻に集合、何台も車に分乗し、富士山周辺のゴルフ場に行ったことは、約30年を経た今でも未だ脳裏に焼き付き消えることはありません。その後10年間程遠退いていましたが、数年前より顧問社会保険労務士さんより労務管理と同じくご指導頂いています。

ゴルフ経験者の方は実感されることと思いますが、これがまたなかなか思い通りにならないスポーツで、残念ながら納得のいくラウンドなどほとんどなく、毎回かなりのストレスです。私は…。

技術の進歩により、クラブやボール等の性能が向上していますが、それを取り入れたところでスコアに結びつかないのが現状です。

そんな奥深いゴルフですが、なかなか若者には馴染みにくいのか、姿を見かけることが少なく残念に思います。便利になりすぐに結果を求める世の中で、技術向上の為の体力維持・相当量の単純な反復練習、細やかなルール・マナー、ほぼ1日を使ったラウンドは敬遠されるのでしょうか？遊びのゴルフだけでなく競技ゴルフでも初顔合わせの方たちとのラウンドは会話が弾み、新しい出会いや気付きもあり、笑顔で終われることがゴルフの魅力の一つなのですが。

わが保育園では男性保育士、主任先生、副園長さんは以前からゴルフを始め、ラウンドも一緒に楽しめることはちょっと自慢です。そして、私は今年「多摩シニアオープン（青梅ゴルフクラブ開催）」に挑戦します。見事予選突破をしたら祝杯を挙げたいと思います。